

平成 30 年度事業報告

I. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進する。

II. 事業内容

1. 公益事業

(1) 普及・啓発事業（定款第 4 条第 1 号）

① 講演会の開催

以下の講演会等を実施した。

i) 伊能忠敬没後 200 年記念講演会「薩摩と伊能忠敬」

日時：平成 30 年 6 月 3 日（土）13：00～17：30（参加者約 350 名）

場所：鹿児島市中央公民館

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 「伊能忠敬とその業績」 | 星埜由尚（元国土地理院長） |
| 「伊能忠敬の種子・屋久測量」 | 鮫島安豊（種子島開発総合センター鉄砲館） |
| 「薩摩藩の天文・測量技術について」 | 松尾千歳（尚古集成館長） |
| 「忘れられた島津斉興の時代」 | 原口泉（志學館大学教授、鹿児島県立図書館） |
| 「薩英戦争と英国海軍の海図」 | 八島邦夫（元海上保安庁海洋情報部長） |

併催地図展「伊能図と鹿児島の地図」

日時：平成 30 年 6 月 3 日（土）～24 日（日）9：00～17：30

場所：鹿児島県立博物館別館（鹿児島県文化センター内）

ii) 春季講演会「地球科学情報の多様な表現方法」

日時：平成 30 年 6 月 9 日（土）14：40～17：30（参加者 54 名）

場所：弘済会館 4 階蘭の間

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 「赤色立体地図の原理とその応用」 | 千葉達朗（アジア航測株式会社） |
| 「地球科学分野におけるオープンデータ活用と三次元造型の展望」 | 芝原暁彦（地球科学可視化技術研究所・明治大学サービス創新研究所） |
| 「カシミール 3D とスーパー地形」 | 杉本智彦（フリーソフト作家） |

iii) 伊能忠敬没後 200 年記念講演会「地図をつくる地図からわかる」

日時：平成 30 年 9 月 15 日（土）13：00～17：00（参加者 103 名）

場所：5-Days こども文化科学館 1F アポロホール

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 「英国海図と伊能図」 | 八島邦夫（元海上保安庁海洋情報部長） |
| 「伊能忠敬の測量とその後の測量」 | 星埜由尚（元国土地理院長） |
| 「宇宙から地球を見る」 | 作野祐司（広島大学） |
| 「都市と地図」 | 匹田 篤（広島大学） |
| 「デジタル伊能図を使ってひらける世界」 | 安部志朗（益田翔陽高校） |

併催地図展「地図をつくる地図からわかる」

日時：平成30年8月21日（火）～9月29日（土）10：00～17：00

場所：広島大学総合博物館本館

iv) 秋季講演会「マグマと活断層の上に生きる」

日時：平成30年10月13日（土）13：00～16：30（参加者約80名）

場所：熊本大学百周年記念館

「地学を国民教養に！」 岩松 暉（鹿児島大学名誉教授）

「九州の火山活動」 大倉敬宏（京都大学火山研究センター）

「熊本地震と九州の地震活動」

松田博貴（熊本大学くまもと水資源・減災研究教育センター）

「火山と人との関わり、火山防災」 福島大輔（NPO 法人桜島ミュージアム）

「パネルディスカッション：火山・地震活動と人々の暮らし」

大倉敬宏、松田博貴、福島大輔、岩松 暉、池辺伸一郎（阿蘇火山博物館）

v) 東京地学協会メダル受賞記念講演会

日時：平成30年11月16日（金）15：00～17：00（参加者約70名）

場所：学士会館2階210号室

「東京地学協会メダル第一号、ノルデンショルド博士の人と業績」

徳永英二（中央大学名誉教授）

「新しい地学、その開拓の道筋（1）」 杉村 新（元神戸大学教授）

「新しい地学、その開拓の道筋（2）」 上田誠也（東京大学名誉教授）

vi) 地学クラブ講演会

場所：第308回以外は東京地学協会講堂、第308回はアルカディア市ヶ谷

第306回 平成30年5月18日（金）14：00～15：30（参加者19名）

「大阪・神戸・京都の沖積層に関するトピックス」 増田富士雄（京都大学名誉教授）

第307回 平成30年7月20日（金）14：00～15：30（参加者28名）

「埋もれた戦時期地球観測データとその利用：外邦図・空中写真・気象観測資料の探索から」

小林 茂（大阪大学名誉教授・大阪観光大学）

第308回 平成30年12月14日（金）14：30～16：45（参加者28名）

「北海道におけるアースハンモックの分布と形成環境に関する研究」

小疇 尚（明治大学）

「ミャンマーの石灰岩から白亜紀中頃の礁性生物の進化史を探る」

佐野晋一（富山大学）

第309回 平成31年1月18日（金）14：00～15：00（参加者12名）

「ジオ鉄10年目の活動と広がり」 藤田和代（深田地質研究所）

第310回 平成31年3月15日（金）14：00～15：00（参加者25名）

「最近のわが国の地熱発電の進展と持続可能な地熱発電技術」

江原幸雄（NPO 地熱情報研究所代表・九州大学名誉教授）

② 見学会の開催

以下の見学会を実施した。

i) 国内見学会「広島県立歴史博物館企画展「日本人の地図づくり」と伊能忠敬ゆかりの

福山市近辺を訪れる」

平成 30 年 9 月 16 日（日）1 日間（参加者 25 名）

案内者 浅野敏久（広島大学総合博物館）

ii) 国内見学会「阿蘇山と災害地形の現地」

平成 30 年 10 月 14 日（日）1 日間（参加者 12 名）

案内者 児玉史郎（阿蘇ジオパークガイド協会）

iii) 国内見学会「測量船体験ツアー」

平成 30 年 10 月 30 日（火）1 日間（参加者 20 名）

案内者 加藤 茂（日本水路協会）

三橋浩志（文部科学省）

③ 広報活動

i) 日本地球惑星科学連合大会（平成 30 年 5 月 20 日～5 月 24 日）において展示ブースを設け、協会の重点事業を紹介するパネル 7 枚と出版物を展示するとともに、フライヤー 4 種とリーフレット 2 種を配布した。

ii) 会員有志や関連学協会を対象にメールニュース（015～021）を発行した。

iii) 地学オリンピック日本委員会発行の冊子に中高生向け広告を掲載した。

iv) 協会ウェブサイトにて、講演会、見学会、助成、表彰などの最新情報を掲載した

④ 日本地学史の編纂

戦後の地学史のうち「研究の成果（個別分野の調査研究）」として地理学について原稿を取りまとめ、会員等から意見、助言を求めため、地学雑誌に掲載した。

⑤ 図書室の整備

受け入れ雑誌管理方針に従い 54 種、186 冊の雑誌を受け入れ整理した。

また、東京地学協会の過去の出版物や写真等をデジタル化し、協会ウェブサイト「ウェブ図書室」のページに公開した。

⑥ 専門家紹介（ジオエキスパート制度）

以下の 3 件の専門家紹介依頼があり、それぞれ適切に対応した。

i) 鍾乳石の伸びる早さ及び伸びる過程の解説者

ii) メタンハイドレートについての講演者

iii) 千葉県栄町房総の村の元窪地が隕石の落下跡かについての解説者

⑦ 関連団体との協力の推進

i) 日本地球惑星科学連合、自然史学会連合及び地理学連携機構との連携を進めたほか、国際地理オリンピック、国際地学オリンピック、GIS day in 東京 2018、日本地質学会札幌大会巡検への協賛、後援または寄付を行った。

ii) 第 29 回国際地図学会議組織委員会に、委員 1 名を派遣するとともに平成 30 年度組織委員会活動費を寄付した。

iii) 国際地質科学連合事務局に 2018 年事務局会議の運営費を寄付した。

(2) 出版・頒布事業（定款第 4 条第 2 号）

① 地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を主目的とした通常号 2 冊と最新の話題や成果を集めた特集号 4 冊、全 1024 ページ（第 127 巻第 2 号から第 128 巻第 1 号まで）を発行した。

- i) 第 127 巻第 2 号 特集号：カルデラ噴火研究の現状と今後の課題 p.103-303 11 論文
(特集号 Overview 及び序説を含む。) 及び地学ニュース (N19-N28)
- ii) 第 127 巻第 3 号 通常号 p.305-438 9 論文 (小特集：地球科学からみた利根川下流域の液状化 (続) - これからの液状化研究に向けて - の Overview 及び巻頭言を含む。) 及び地学ニュース (N29-N35)
- iii) 第 127 巻第 4 号 特集号：歴史時代の気象災害と気候変動 p.439-568 12 論文 (特集号 Overview 及び巻頭言を含む。) 及び地学ニュース (N37-N85)
- iv) 第 127 巻第 5 号 特集号：冥王代の世界 (Part I) - ハビタブルトリニティ惑星の誕生 p.569-734 10 論文 (特集号 Overview 及び巻頭言を含む。) 及び地学ニュース (N87-N99)
- v) 第 127 巻第 6 号 通常号 p.735-860 7 論文及び地学ニュース (N100-N119)
- vi) 第 128 第 1 号 特集号：中部山岳域の天候・気候変化を探る p.1-154 13 論文及び地学ニュース (N1-11)

また、本誌発行と同時に電子版をオンラインジャーナル (J-STAGE) として公開し、地学協会ホームページからもアクセスできるようにしている。

これらの企画・編集のための委員会を特集号に関するものを含め 11 回開催した。

② 地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平成 27 年 3 月 23 日に結ばれた「地球科学図・地球科学データ集の有料頒布に関する業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等 789 種の出版物を取り扱い対象とし委託販売により頒布した。なお、平成 23 年 9 月からは海外からの購入希望にも応じている。平成 30 年度の頒布実績は、379 種、991 部、払出総額 (産業技術総合研究所への納入額) にして約 150 万円であった。

(3) 研究等助成・表彰事業 (定款第 4 条第 3 号)

① 研究等助成

調査・研究助成 15 件、国際研究集会助成 1 件及び平成 30 年豪雨災害関連緊急調査・研究助成 5 件の応募があり、以下の通り、それぞれ 8 件、1 件及び 5 件を採択した。

1) 平成 30 年度調査・研究助成

田近 周 (アメリカ自然史博物館) 炭酸塩殻の化学組成分析による白亜紀アンモナイト類、オウムガイ類の基礎代謝の推定

八木浩司 (山形大学) 亜熱帯モンスーン・高起伏衝突変動帯における地殻変動・気候変動を誘因とするカタストロフィックな斜面変動史の解明

山田 誠 (京都大学名誉教授) 戦時期の日本における地形図の改描に関する基礎的研究

在田一則 (北海道総合地質学研究センター) 北海道地殻構造トランセクトの構築
蛭田明宏 (明治大学) 柏崎西方の円錐台地形と海底泥火山の関係を明らかにする

羽田裕貴 (茨城大学) 千葉複合セクションにおける松山ーブルン地磁気極性反転イベントの完全復元

佐々木夏来 (東京大学) 八幡平火山群の湿地発達に地形変化と気候変動が及ぼす

影響

小室 譲（筑波大学）ツーリズム産業における労働者の特徴と構造からみた国際リゾートの持続性について－カナダ、ウイスラーを事例に－

2) 平成 30 年度国際研究集会助成

松本 淳（首都大学東京）第 11 回地球の大気循環復元に関する会議、コペルニクス気候変動サービスデータレスキューワークショップ及び第 3 回地球の大気循環復元中国プロジェクト会議

3) 平成 30 年豪雨災害関連緊急調査・研究助成

西山賢一（徳島大学）広島県・愛媛県の山麓斜面における斜面崩壊・土石流の発生頻度の推定

須貝俊彦（東京大学）平成 30 年 7 月豪雨による崩壊・土石流発生場の地形学的特徴－広島県・愛媛県の花崗岩、流紋岩、堆積岩地域を対象に

松多信尚（岡山大学）倉敷市真備における水害の時間経過の解明と住民の避難行動

後藤秀昭（広島大学）平成 30 年 7 月豪雨に伴う広島県南部の斜面災害に関する地理学的研究

目代邦康（日本ジオサービス株式会社）愛媛県西予市における肱川氾濫による洪水災害の実態と平常時と災害時における四国西予ジオパークの対応

② 普及・啓発活動助成

普及・啓発活動助成については、1 件の応募があったが、不採択とした。

③ 表彰

上田誠也博士及び杉村 新博士に東京地学協会メダルを授与した。平成 31 年度に向けて 6 名の候補者推薦があり、1 名に東京地学協会メダルを授与することとした。

2. 収益事業（定款第 5 条第 1 号）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業：引続き地学会館ビルの一部を賃貸するとともに、必要に応じた改修を行った。東京地学協会の公益事業を安定的かつ継続的に行うため、収益事業等会計から公益目的事業会計に資金的支援を行った。

平成 30 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。